

継続的イノベーションのための資源連動の仕組み “Resource dynamism for continuous Innovation”

つくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点(TIA-nano)

TIA-nanoは、国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)、国立研究開発法人物質・材料研究機構(NIMS)、国立大学法人筑波大学および大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構(KEK)が中核機関となり、日本経済団体連合会(経団連)とも連携して、世界的に魅力あるナノテクノロジー研究拠点を造り上げようとする取り組みです。

第1期(2010-2014)の成果

2010-2014の5年間に「オープンイノベーションハブ」の構築を目指し、多彩な取組みを推進しました。

■ 優れた研究成果

ナノエレクトロニクスで、IMECと比肩する論文数、フォトニクス世界3極の1つ、SiCの先端研究、蓄電・発電材料の先端研究など多くの成果を創出。

■ 産業化への加速

SiCパワーデバイスとCNTでは、パートナー企業が量産工場、量産プラントを建設。MEMSでは、大規模実証に繋がる成果を創出。

■ コアインフラ、共用施設の整備と利便性の大幅な向上

SCR、SiCパワーデバイス試作ライン、MEMSファンドリー等の能力向上と放射光施設PFの加入、共用施設DBの稼働、施設の24時間稼働、スポット利用の新制度を創設。低炭素ハブにおいては企業利用数が増加。

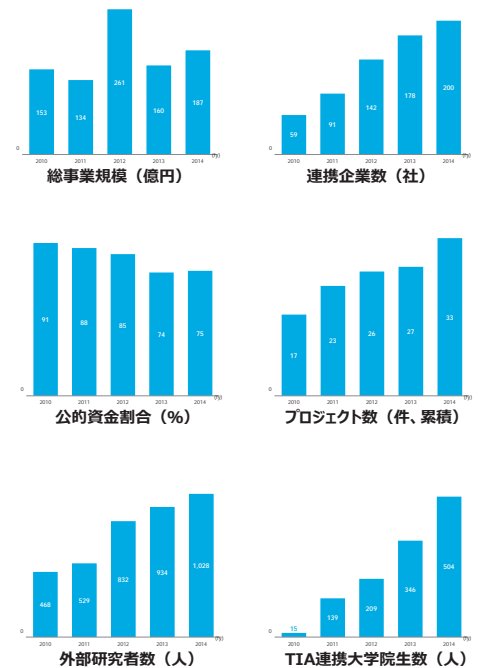
■ オープン・イノベーションの新たなモデル創設

TPECによるSiCパワーデバイス産業化に向けた企業連携推進、CNTサンプル配布による産業利用探索の加速、NOICによる会員制による産学官連携の促進。

■ 人材育成

企業連携講座の創設、コア研究領域ごとの夏季集中セミナー開催、GREEN、NOICにおけるRAIによる学生の育成、Nanotech CUPALに着手。

第1期の成長の軌跡 (主な成果指標)



第2期(2015-2019)の取組み —TIA-nano vision 2015-2019—

■ 我が国のイノベーションシステムの改革を先導する「オープンプラットフォーム」

我が国のイノベーションシステムの課題は、知・技術・人といった資源が連動しない、流動しないことです。このため、これまでのTIA-nanoの実績を基点とする仕組みを構築し、この課題を解決するための変革を加速させます。

- ▶ ユーザー視点で一層魅力的なオープンプラットフォームへと拡大・再編します。
- ▶ 自立的運営、新たな取組や相互に連携する取組、外部の提案に基づく新たなプラットフォームの展開等により、「知の創造・強化」と「産業化」を推進します。
- ▶ オープンプラットフォームマネジメントの確立。ワンストップ化の仕組みの構築、企画能力・戦略調査能力・提案能力の強化、国内外への情報発信・広報の強化を図ります。

イノベーションシステム改革を先導するTIA-nanoの役割

